

## 若手職員プロジェクトチーム会議（こどもファースト） 概 要

- 開催日時：平成30年7月18日（水） 15：00～17：00
- 開催場所：岐阜市役所 本庁舎4階 第4-1会議室
- 会議テーマ：こどもファースト（子どもや子育てに関する分野）
- 出席者：〈若手職員プロジェクトチーム〉  
野中 脩平、加納 聖丈、杉本 昭一、尾関 直子、鈴木 麻衣子  
大野 晃史  
〈庁内関係部局〉  
企画部長、教育委員会事務局長、子ども未来部長、健康部長  
〈招聘者〉  
生田 裕規 氏（認定特定非営利活動法人カタリバ）  
横井 寿史 氏（特定非営利活動法人ファザージング・ジャパン 理事）

### ○施策・事業案に対する主な意見

#### ■学校外教育クーポンの導入

---

- ・中学3年生に絞った背景は何か。（招聘者）
- ・小学4年生からにすると、毎年かなりの金額になる。実際に、学習調査でも中学3年生のときにお金がかかっており、中3を対象にした。（若手職員プロジェクトチームメンバー。以下、メンバー）
- ・福祉側と学校教育側の連携は大事。他都市では、元校長先生を福祉で採用して連携を図っていた。（招聘者）
- ・バウチャーの支援が届きにくい世帯に対してどう支援していくのか。逆に学校教育であればアプローチしやすいというところもあり、そういった連携を意識した取り組みになったらいい。（招聘者）

#### ■ファイナンシャルプランナー（FP）を活用した人生プラン作成

---

- ・自分のキャリア、生き方、働き方の理解がないと難しい。（招聘者）
- ・人生プランとセットで自分のライフキャリアを考えていく、そういった接点があるといい。（招聘者）
- ・子どものことに関しても詳しいようなFPさんが見つけられるとすごくおもしろい。（招聘者）
- ・中学生全体など、もう少し幅広にやれるといい。（招聘者）

#### ■プロジェクト型学習（PBL）の実践による岐阜未来人財育成

---

- ・中学生にとってロールモデルとなるような人との出会いというものが非常に重要。（招聘者）
- ・一歩踏み出せない子に、どうアプローチしていくのが課題。（招聘者）
- ・君たちが決めたことは極力実現するように行政としてはサポートしていく姿勢が大事。（招聘者）
- ・いろいろな大人に出会って、褒められる、一緒に失敗する、成功する体験が、自己肯定感、当然上がっていく。自分が動けば変わっていくんだという、そのプロジェクトを通じて、影響を社会に与えられているという実感が重要。（招聘者）
- ・プロジェクトは失敗していい。成長ツールとして捉えることが重要。（招聘者）

- ・中央青少年会館などに子どもたちが敷居高くなくて来られるといった雰囲気づくりも必要。(関係部局)
- ・岐阜市の中学生の肯定感が低いのは、何が原因か。(関係部局)
- ・少し控え目な県民性という話や、塾へ通うことによって現実が見えてきてしまうことや、テレビなどから見える範囲をイメージすると、現実味が帯びてきてしまうという話はある。(メンバー)

### ■ぎふし 働きビト応援団「ぶりあっぷ！ぎふ」

---

- ・WLBセミナーなどに関心がない企業に重要性を認識してもらうために、インセンティブを与えるというのはいい。そこに勤めている従業員男性層にも意識が順次広がっていく。(招聘者)
- ・抱っこヒアリングなどあわせて男性向けにも取り組んでもいい。(招聘者)
- ・組織の風土、父親の意識、妻の意識、同時に、一緒に考えていくことが必要。(招聘者)
- ・支援対象者を個別に支援するのではなく、支援の網の目につなげていくことが重要。(招聘者)
- ・大変さを理解してもらうためにも、抱っこヒアリングをやっていけたらいいのではないか。(関係部局)
- ・女性職員も、例えば、自宅で仕事をしている、どこかで職場とつながっていることを男性職員、職場にいる人たちと何らかの形で共有できるといい。(関係部局)
- ・子育てしているからこそできる仕事、観点などがあり、今、求められている。(招聘者)

### ■ぎふし共育都市プロジェクト～男性の育児参画支援～

---

- ・男性の家事スキルはそれなりにある。パートナーシップというものを学ぶ機会が必要。(招聘者)
- ・意識の低い男性に向けてどう発信していくか、企業に向けたいろんな発信が重要。(招聘者)
- ・父親だけでなく、地域ぐるみで支援しないと根本的に子育てしやすい環境とは言えない。(招聘者)

### ■岐阜市版ネウボラ × 育児パッケージ

---

- ・パッケージをどう届けるのか、人手が足りるのか、実際に足を運んでもらうか考える必要がある。(招聘者)
- ・協賛がなかなか得られないという話もある。子育て支援企業認定制度を活かし、協賛を募ることも。(招聘者)
- ・バウチャーなどは好評とも聞く。(招聘者)
- ・保健師と面談できていない人の拾い上げをどうしていくかと考えていきたい。(関係部局)

### ■空き家活用 × 子ども・子育て支援事業

---

- ・空き家には個別具体の事象が多い。(招聘者)
- ・空き家がいいのか、公民館なのか、もしかしたら学校の空き教室なのか、地域のコミュニティーの核となるような場所にしていくことが大事。公民館などを全て学校の空き教室に集約しているのが島根県の益田市。(招聘者)
- ・どれぐらいの規模のコミュニティーにしていくのか考える必要がある。(招聘者)
- ・場所とニーズがマッチするといい。地域も巻き込んで理解を得ることも必要。(招聘者)
- ・小規模保育事業所なら、地元の理解を得ながら何かできそうな感じもする。(関係部局)
- ・幼稚園の子が学校に行っている、学童保育と保育所というところの壁も取り払えるといい。(関係部局)

## ■子ども支援等NPO向けファンドレイズ助成

---

- ・行政の予算一本では、持続可能性が難しい。（招聘者）
- ・プラットフォーム的なものを立ち上げて、そこがファンドレイズ機能を担っていくことも。（招聘者）
- ・担い手の確保が一番難しい。佐賀県のように、やりたい人が岐阜市に来たいと思うようなインセンティブが必要。（招聘者）
- ・行政が立ち上げる意義として、ふるさと納税をフル活用できるところがある。（招聘者）
- ・助成を1回もらって終わりでは意味がなく、走り続けられることが大事。伴走支援が必要。（招聘者）

## ■子どもの発達「指導・支援者」全力サポート事業

---

- ・発達障害とか支援が必要な子どもの情報が校種を超えてつながっていないことが課題。滋賀県の湖南市は、パスポート事業という形で、連携するツールをつくっている。（招聘者）
- ・対面でもウェブでもフォローできる仕組みはいい。（招聘者）
- ・予算的にはランニングコストもかかり、注意が必要。（招聘者）
- ・厚労省も乳幼児健康診査のデータや、予防接種の記録、こういった形で個人ごとに残していくか検討段階。また、個人情報の関係もあり、スマホで見られるようにするかも含めてこれから検討されるのではないか。（関係部局）

以上